

SPACE

これからの大学の在り方



背景 | 大学のこれまでとこれから

創立100周年記念事業（O-Camp）の一環として進む大宮キャンパスの再整備。さらなる活気ある大学づくりと地域社会への貢献を両立するには、学生と地域住民の連携が不可欠である。これまで単なる通学の通過点に過ぎなかったエントランスゾーンを、双方向の日常的な関わりを通じて、互いが共に成長を遂げられる「開かれた場」へと再編する。



本計画では、美しい緑や快適なベンチといった一時的な心地よさや快楽（ヘドニア的幸福）の提供だけに留まらない。人々が主体的・能動的に活動し、個人の潜在能力を発揮しながら自己成長や生き甲斐を感じる持続的な幸福、「ユーダイモニアのウェルビーイング」を地域と大学が共に追求できる空間のあり方に着目する。



デザインコンセプト | 『SPACE（寛容性）』

地域から大学へ人々を効率的に引き込み放つ緑の動線軸『SPINE』に対し、本提案では多様な振る舞いや社会の変化を緩やかに受け止める面的余白『SPACE』を配置する。ダイバーシティの考えに基づき、ルールを緩やかにして小さな活動を許容する「寛容性のポケット」を敷地全体に点在させることで、地域と共に成長する新たなグリーンキャンパスの顔を創出する。

